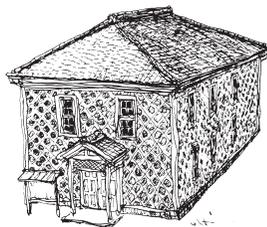


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

い わ な み あ つ こ
岩波敦子

独立自尊 || 他尊の協生社会を目指して

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。慶應義塾の「社中」に皆さんをお迎えできますことを心より嬉しく思います。

年齢・性別・国籍を問わず慶應義塾を支える学生・生徒・児童・教職員そして卒業生などを指す「社中」という言葉には、共に変革を促す「全社会の先導者」になろうという願いが託されています。

慶應義塾は「気品の泉源」「半学半教」「実学」「自我作古」「社中協力」など様々な建学の精神を大切に受け継いできました。その中の一つ「独立自尊」の「自尊」には、自分だけでなく、「自他の尊厳に等しく敬意を払う」という意味が込められています。

慶應義塾の創始者である福澤諭吉先生はsocietyを「人間交際」と表現され、「世の中に最も大切なものは人と人との交わり付合なり。是即ち一の学問なり」と仰っています。学問にはそれぞれ作法があつて、人と人との交わりで大切なのは自他の尊厳を尊重する心、そして一人一人が自分らしく生きることへの共感と配慮です。社会環境によって夢を諦めることなく、自分

の感性や選択を肯定する勇氣をもつて自分らしい生き方を実現できる社会、これが私たちの目指す協生社会です。

社会的固定観念と心身の制約を乗り越え、一人一人が自分の選択に応じた生き方を実現するためには、相手の立場に身を置いて考えられる想像力と、他者への深い思い遣りに根ざした寛容の精神が必要です。

ドイツ語に「Mitleid」という語があります。しばしば「同情」と訳されますが、現代の日本語の「同情」が持つ、自分と相手の立場の違いを前提とする、ちよつと上から目線の語感とは少し違って、**「痛み (leid) を共に分かち合うこと」**を表しています。誰かの辛い気持ちを自分の痛みとする、それが「Mitleid」という言葉なのです。

慶應義塾の「社中」は、目的を共有するだけではありません。仲間の喜びを自分の喜びとし、仲間の夢の実現を心から応援する、慶應義塾は志を同じくし、苦楽を共にできる生涯の友に出会える学塾です。皆さんにとってかけがえのない時間を共有する仲間に巡り合えるよう願っています。